

くずし字典

うつし

•

虚色を本山に研ぎ切って

底光りに 映る

貧しさ

名にしおう刀工その銘を売りわたし

自らは ポンチ)・(一発

記号…と…化すことの

まぶしさ

うつしは 切れない

うつしきれない

なにか

………

千代鶴写し

名のみ／移し

切れないな！鑿

過度ノ銘柄信仰ヲ ワラエ

主なき技はついに商品となりえず

商標はいつも空虚を示す

反骨する中点

氾濫する写し

アイロニックに名を断ち落とし

匿名の記号として 刃であれ

的を射るのではない

様々に切り口を開け

なにか

研ぎきったもの

くずし

あの手／この手…でろうて

「方法」の語後

みえないものの 影がみえる

葛葉河原ぬ 月夜…

その流れ 水無… 川

釜に堆積する 腐植のにおい

たえがたきを たえず

寝た椰子の葉影に

十字星の 散じ余字

腐っても鯛？ ／ 枯れても松？

やわらに朽木倒し 技あり一本

松葉くずしも くずしのうちか？

ひぐらし硯もて ただ臨書せよ くずし字典

てし (手師⇨書家…王羲之)

書け字句！と、厳父の厳命に

あし手すじ恥じ手習い受ければ、一語の一誤に、火箸しばしすねにふりおち
頭には拳骨のコブ、古武道の習いにあらず、と

掛け軸の、ねぶれる虎馬のいまに古へず知らず手ふるえてカクカクしかじかと
鉛筆で字句をかけばじくじの思い流れ、**じよせう**は **どぜう** に似て
毛筆にかけば **しくしく**とひぐらし鳴いて **線型**なく震えるか

「線細くも型肅々と強く サビた趣き妙なること 古来希なる手師に似たり」とか
大家に褒むられ

手の震えを生かす「隷書にこそ道・手あり」と書く 奉書紙に墨滴いうげん
あと先に筆先のあと残さない古隷に満ちてあり

いみを渡さず わたし
流に
葬ればよい
この手の ことは

茶化し

わが手ゆびは やや野卑ゆへよにもいかにも不始末だ
しらうおは つゆしらず
えんぴつサヨリ さよりなく
根竹のふしぶし部 芽出るべき葉もなく
言の葉愛でたる 詩人にはなれない
木の実ならない 花好み竹

高太郎の手にをは にてない
朔太郎の浪漫優れにも にてないっし
どこまでいっても もの忌み 方違え
此処は どこ?と
孤高なる土工のゆびとか やアゆるよ
ゆのないふるかしがない茶道の 手すさび と
和紙に茶菓子

ペン修辞

ぼくの字は 氾濫 しらんらん 乱筆 ひとには読めず
うかれて書けばば ろれつまわらず られつこのこと
徘徊はかなし小岩 ときめくしだれ藤の悪筆
モンブランのじくを削り うたを詠む
紅斑紋さびぬ山女魚か暮れ秋の溪
秋の山女はやま酩酊
紅葉の色気さ 食いけなしボーズの毛針に つれないけはい濃いか
愁傷の愁訴を かくもひとの笑いほほ赤きりんごのへタの横好き なれば

字あまりナシの斑点 天空法師

テンカラ毛針は 写真にあらざつと昔より いと絶えずとせ
不治の悪筆いとわし句 一首
ぼくの万年筆（ペン）インク枯渴しひと月で果て

筆供養日

変換くずし

「ユーカラ・アート」（東海クリエイト）

ユーカラのうたどこぞ

枯れ井なる 誤変換

「宇部こそ、そのなき肥ゆる、和歌ああ犬ラツクル馴れ」

（うべこそ、その名聞ゆる、稚ア アイヌラツクルなれ）

「東海のかじまの磯のー知らすなに」ではだめだっち

「われーなきぬれてえーカニとったわ萌え♡」って テキスト・アーチストが

悪筆けしけシゴムかすにいらだつよりまし アートの道代 道よみちがい

啄木 哀しき玩具の 喻気ちがい

「ATOK」

エーからカン字

A 特急変換

A I U E O チョンで「愛飢え男」とか 相聞歌入力学習の跡 頻出語恥ずかし賢く覚えるが

「いしかわ」とダダすれば「石川さゆり」と挙げる人名辞書小坂子 文語の誤変換

「かくかくしかじか」と換えよとある人の名を打つが太い指かなし キー誤打語だなれば

「二都に後手地」とネチネチ変換 使い初めの自動書記シュルレアリスムかダダっこだったり

啞然／茫然／やがて憤然の機能停止で し肯定し 試行停止 始皇帝死 思考停止…

おなごを抱くように 温めておやりよ 初心なソフトは

現代っ子しつける手間に似ている 人工知能（AI）

一太郎かしこみかしこくかんがみ日ごと進化し

あい合いかさなるAI 現代神化の破魔先あゆみ

やぶれ傘語素 作文し

古語を眠らせ

古語の上に はやり語はやふりつもり

歌語を眠らせ

歌語の上に 過誤はやふりつもり

今様の もちづきのうたげしき

われともに 破魔矢のはまを裸足で走る はひふへほの辞か

「MS・IME」
インプット・メソッド・エディタ
…ますます・意味(ふめい)

敬虔な

ワーズワースの 調べ

Words of (経験／知喚・変態―痴漢)

いとやんごとなききはにておはせど すぐれてときめきたもう ことなくも
デファクト・スタンダード MS・DOSこいと窓々に 妖しい肢体さらし

先住民追い出し西部劇に 頭部を占拠する

アラモの砦か 荒藻のISOに

CPU セントラル・プロセッシング・ユニット

和語と英語の出会い
は
カナし

CPU 世紀の プロポーズ アンビリーバボー

マリリン 悶弄ウオーク グラマラスに

インシュタイン 頭でっかち か細い肢体

知性と痴性の出会い は
かなし

痴性に満ちた しょぼい詩体

クズは変わらぬ 尽きよ…

その流れ 水無し川

淵跡に堆積する 腐植のにおい

絶えがたきを 耐えず

根絶やし墓 げに

十字架の 崩れ散じ…

：

あまりに クズ詩